

## 令和2年(2020年)度 第2回 大阪府立西成高等学校 学校運営協議会 記録

【日 時】令和2年(2020年)10月17日(土) 10:00~12:00

【場 所】大阪府立西成高等学校 多目的室A

【出席者】(会長) 西田芳正委員・赤坂寛臣委員・奥野喜久夫委員・田中俊英委員・寺嶋公典委員  
堂上勝己委員

### 【内 容】

1. 校長挨拶
2. 報 告
  - ロードマップの振り返り(～9月)について
    - ・にしなり進路フェスタについて
    - ・西成高校の人権教育について
3. 議 事
  - ロードマップの運営について
4. 閉会の挨拶

### 【各委員からの主な意見等】

- 全校生徒の内、約3分の1が何らかの支援が必要な生徒であるとの報告があったが、発達障がいや愛着障がいが中心になると思う。そのような課題のある生徒支援のために、①情報の整理・共有、②アセスメント(見立て)、③短期と長期の目標設定、④行動計画の四段階からなる、ケースカンファレンスを構造化して行うのはどうか。
- 発達障がいや愛着障がい、虐待サバイバー、PTSDについて教員が理解を深めるために、研修を実施することをお勧めする。20代の教員は生徒の憧れで、その先生に理解されると生き生きしてくるはずである。
- 西高に来ている生徒は、中学校でしんどかったり、頑張りなおそうと思って来ている子が多いのではないかと思う。これまで、最大18%あった中退者数が、現在は6%まで減少していることを強調して、「卒業まで支援する高校」であることを1つの強みにするのはどうか。
- セクシュアル・マイノリティの生徒や外国にルーツを持つ生徒などが多数在籍し、人権教育に力を入れていることなど、「人権を尊重している学校」であることをアピールするのはどうか。
- インターンシップ受け入れを地域にお願いするなど、西成高校のことが好きな住民や企業とかを増やしていくような戦略を立てていくべきである。
- もっと地域との連携を強固なものにして、生徒や地域の人などから愛される学校をめざし、「西成」が好きな生徒を増やしてほしい。  
⇒ 西成高校に来る地域の子どもの数が減少してきているため、西成に通いやすい地域にも広報することを予定している。大阪の西成に立った、どっぷり地元の学校なので、地元の特色を失わせる気はないので、地域の小中学校と地元の企業と連携しながらやっていくという方針には変わりがない。
- 西成高校では、この3～4年の新しい取組みがいろいろ結実しつつあると思うが、西成高校モデルみたいなものを外部発信というか、地域の発信も大事だが、同じようなタイプの高校に、それを発信することをお勧めする。
- 支援や配慮を必要とする生徒とそうでない生徒と一緒に学んでいることのメリットをどう考えていくのがとても重要だと思う。  
⇒ 高校に通うことで、支援や配慮を必要とする生徒とそうでない生徒の見分けがつかないくらいになっている。支援学校と比較した強みは、コミュニケーションの力であるとか、人とつながる力が身に付くことだと思う。

### 【今後の予定】

- 第3回： 1月23日(土) 10:00~12:00 (場所：大阪府立西成高等学校 多目的室A)